

熊本市民病院再生ワークショップにおける学びの質に関する一考察

熊本大学工学部社会環境工学科 学 ○竹長 健斗
熊本大学政策創造研究教育センター 正 田中 尚人

1. はじめに

(1) 背景

さまざまな活動において対話は重要な役割を果たしている。例えば、活気のあるまちづくり活動を行うにはそれに応じた良い対話の場が必要である。良い対話の場づくりは、良いまちづくり活動を生み出すことにつながる重要な要素である。しかし、ワークショップ（以下、WSと略）などにおける対話は、その場かぎりになるなど課題もあり、対話を通じて参加者が何らかの学びを得ることが重要であると考えられる。

(2) 目的

良い対話の場には良い学びを得た参加者が存在することから、WSから何らかの学びを得た参加者の感想を分析し、良い対話の場作りに必要な要素を見つける。

2. 研究の内容

(1) ワークショップとは

WSという言葉の定義については、山内らの「ワークショップデザイン論」¹⁾によると「workshop」という言葉はもともと「工房」という意味を持ち、この工房が持つ「創ることで学ぶ」という側面から「創ることで学ぶ活動」と定義されている。

(2) 研究手法

本研究では、実際に行われたWSを対象として、構成そのものの分析を行う。WSが持つ「つくる」と「学ぶ」の二つの側面が繋がっていることに着目し、構成分析を終えたWSの感想シートからエピソード記述を用いたメタ分析により、質的な分析を行った。

エピソード記述とは、鯨岡ら²⁾によると図-1のように、自らが参加した活動を「面」としてとらえ、そこから自身の興味、関心等を「図」として抜き出し「エピソード」として記述を行う手法である。自らが参与観察した一連の動作をエピソード記述として扱い、できるだけ客観的にメタ的に分析したものを1次メタ分析、それをさらに他者としてメタ的に分析したものを2次メタ分析と呼ぶ。

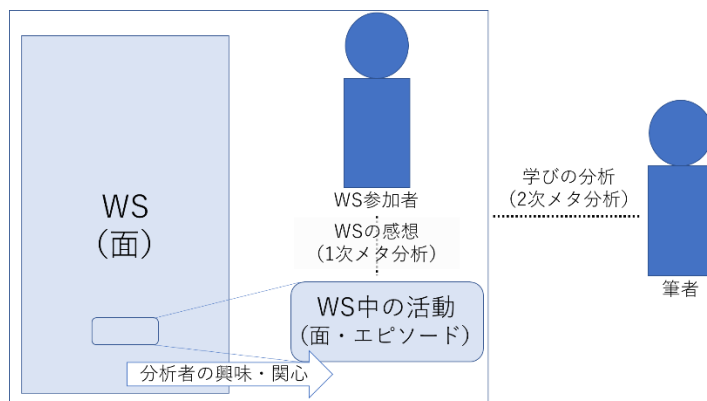


図-1 エピソード記述・分析の手順

3. 熊本市民病院再生WSの概要

(1) WS概要

本WSは熊本地震で被災した市民病院の移転再生にあたり、より良い市民病院にするために、病院スタッフ自身が出来ることを考え、計画していくことを目的として表-1のように行われた。

表-1 市民病院ワークショップ構成

		第1回	第2回	第3回
タイトル	導入	こんな市民病院で働きたい	市民病院の〇と×	風通しの良い市民病院に私たちがする
	目的	将来のビジョン構想	現状の把握	提案の作成
参加者	手法	ワールドカフェ形式	ワールドカフェ形式	KJ法
	参加者	医師：7名(10%) 看護：42名(62%) 技師：17名(25%) 事務：2名(3%)	医師：1名(4%) 看護：12名(55%) 技師：3名(14%) その他：6名(27%)	院長、副院長 医師：22名(28%) 看護：40名(52%) 技師：12名(15%) その他：4名(5%)
タイムスケジュール	WS本題	18:00~18:15 病院移転再生の説明 WSの説明	18:00~18:15 前回の振り返り WSの説明	17:30~17:50 病院移転再生に関する説明 前回の振り返り WSの説明
	アイスブレイク	18:15~18:30	18:15~18:30	17:50~18:00
	振り返り	18:30~19:20 手法：ワールドカフェ	18:30~19:20 手法：ワールドカフェ	18:00~18:50 手法：KJ法 テーマ：目的・関係・人・仕組みづくりの4テーマ
	振り返り	19:20~19:30	19:20~19:30	18:50~19:00

(2) 構成分析

このように本WSは全3回構成で行われている。それぞれ1回目で将来のビジョンを考察、2回目で現状を見つめなおし、3回目で提案を作成するという流れを取っている。また1回、2回目のWSでは、ワールドカフェ形式が採用されており、参加者が持つ考えを共有することを目的とした内容となっている。それにより3回目のWSでは、あらかじめ参加

者間の思考をある程度共有した状態でのブレインストーミング、KJ法が可能となり、提案の作成へと繋がると考えられる。

(3) 各回の学び

図-2, 3, 4 は 3 回の WS で参加者が挙げた感想である。1, 2 回目の感想では、現状風通しが悪い病院であること、将来的に風通しの良い病院にしたいといった感想が多く見られ、3 回目では、職場の体制や環境といった風通しの改善に関する活動を行いたいと記載した参加者が一番多くなっている。

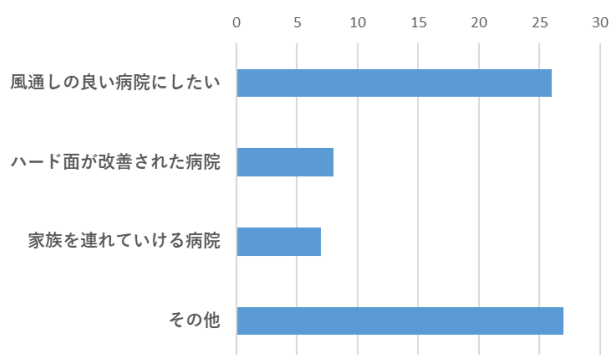


図-2 第1回感想 こんな病院にしたい

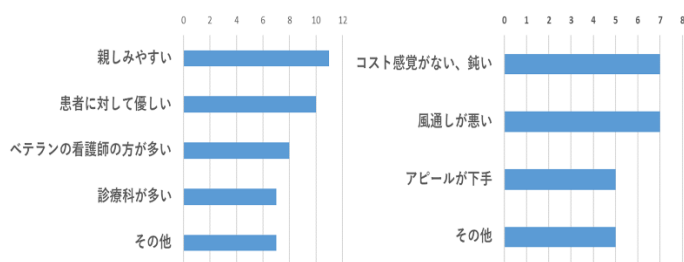


図-3 第2回感想 市民病院の〇と×

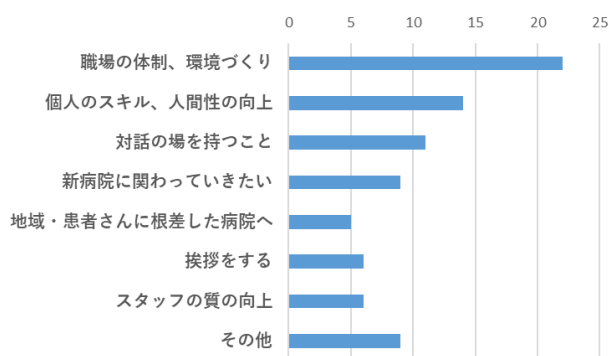


図-4 未来のためにやっていきたいこと

(4) 参加者に着目した学び

全 3 回行われた WS の内、複数参加者の感想シートの分析、単数参加者の感想シートと比較し、複数参加間の記入内容の変遷、感想シート記入方法等の質的分析を行い、参加者に着目した学びについて分析する。

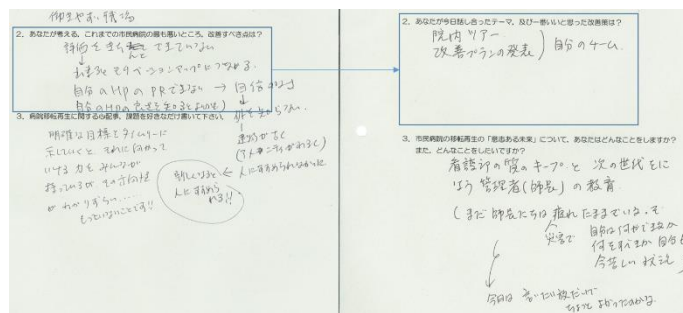


図-5 複数参加者の感想

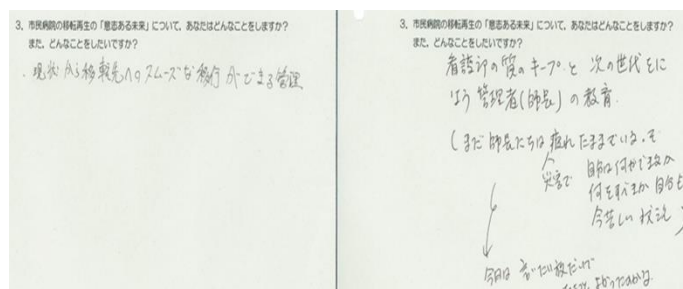


図-6 単数（左）と複数（右）参加者の比較

図-5 は 2-3 回目参加者の感想シートから 1 名を抜き出したものである。青い囲いで示すように 2-3 回目間で共通した問題意識を持っていることが分かる。

また、図-6 では単数参加者との比較を行っている。単数参加者に対し、複数参加者の感想は問 3 の内容の文量が多く、具体性も見られる。

双方に言えることとして複数回参加者のシートには矢印、囲いを使っている個所がある。これは、参加したことで自分自身の中に何が残っているのか、何を学んだのかを理解していることが推察される。

(5) まとめ

本 WS を通して、参加者は 1, 2 回の WS により課題を互いに再確認することで 3 回目にそれらの課題に対しての具体的な解決策を提案することに成功しており、WS を通して良い学びを得ていると考えられる。

4. おわりに

今回、複数開催された WS に対し、参加者がそれぞれどのような学びを得ているのかについて、エピソード記述の手法を援用し分析した。複数回設定された各 WS で、WS の目的に対して参加者がどのような対話を行い、解決策を見つける一連の学びを得たのかを分析し、場づくりとの関連について考察した。

参考文献

- 1) 山内祐平・森玲奈・安斎勇樹, ワークショップデザイン論, 慶応義塾大学出版会, 2013. 6. 15
- 2) 鯨岡峻, エピソード記述入門, 東京大学出版会, 2005. 8. 4